令和6年度　沖縄県産業安全衛生大会開催！

令和6年度沖縄県産業安全衛生大会が、10月11日（金）宜野湾市のラグナガーデンホテルにおいて、沖縄県内の労働災害防止団体等（9団体）による共催、沖縄労働局、沖縄県、宜野湾市及び中央労働災害防止協会の後援で開催され、391名が参加しました。

大会全景

労働災害で亡くなられた方々等に黙祷を捧げた後、主催者を代表して島袋清人大会長（沖縄県労働基準協会会長）の大会長挨拶で開会しました。島袋大会長は、「人手不足、少子高齢化、物価高騰等、経営環境等は厳しいものがありますが、いかなる状況下でも働く人の命と健康の確保は何よりも大切なものであります。また、人手が不足している中で災害が発生すると更なる人手不足に陥ることになります。安全衛生対策に取り組むこと、健康経営を行うことは人材の確保・定着、生産性の向上、成長と分配の好循環の構築にもつながります。各事業場におかれましては、社会情勢の変化等に対応し、安全で健康に安心して働くことが可能な職場の実現に向け、労使一体となって、安全衛生活動を一層促進されますようお願いします。」旨挨拶されました。

大会長挨拶をする島袋清人大会長

引き続き、来賓の柴田栄二郎沖縄労働局長から祝辞が述べられました。柴田沖縄労働局長からは、「重篤な被害につながる墜落・転落災害や機械災害の防止に努めて頂くとともに、高年齢者の増加に合わせた対策も進めるなど、全ての事業場におきまして積極的な災害防止対策の徹底、また、「うちなー健康経営宣言」の積極的な登録、宣言に基づく着実な健康確保対策の推進をお願いします。職場における安全対策と健康確保対策は、車の両輪であります。作業を行う皆様が健康でなければ、事故発生のリスクが高くなります。本日の大会を通しまして、あらためて安全衛生水準の一層の向上を図るため、自主的な安全衛生活動に取り組んでいただくよう重ねてお願い申し上げます。」旨ご挨拶をいただきました。また、公務のためご来席できなかった玉城デニー沖縄県知事からの祝電も紹介されました。

祝辞を述べる柴田栄二郎沖縄労働局長

その後、沖縄労働局長表彰及び沖縄県労働基準協会長賞の表彰式が行われ、受賞者に対し賞状が授与されました。

第2部では、事例発表として、安全関係では拓南製鐵（株）の職長松本浩氏より、労災を起こさないための施策、安全対策などの取り組んでいる活動の発表、健康経営では琉球製罐（株）の課長安次富徹氏より、健康経営の取組み、継続して実践していることなど具体的な取組みの発表がありました。

事例発表

特別講演

特別講演では、Ｈ２Ｌ株式会社のＣＥＯで琉球大学工学部の教授でもある玉城絵美氏による「沖縄県と各都市をつなぐBody Sharing技術　体験共有の未来とそのライフスタイル」と題して、人間とコンピューターの間の情報交換を促進することによって豊かな身体経験を共有するBody　Sharing技術についての講演があり、参加者は沖縄県出身者で女性研究者兼起業家の世界的にも注目されている最先端の技術に耳を傾けていました。

大会宣言は、林業・木材製造業労働災害防止協会沖縄県支部の小山支部長が読み上げ、「労働災害の撲滅と健康で安心して働ける職場環境を目指ざす」ことの宣言が満場の拍手をもって採択されました。引き続き、指差唱和を港湾貨物運送事業労働災害防止協会沖縄総支部の先導により、参加者全員でスローガンを読み上げました。

参加者全員で指差唱和

最後に、（一社）日本クレーン協会沖縄県支部松野専務理事の閉会挨拶をもって、成功裡に閉会しました。